

東日本大震災の記録

(福島県 須賀川市・郡山市)

2011年3月11日にマグニチュード9.0の巨大地震が発生した。

私が住む福島県中央部でも震度6弱～強と大きな値となり、立ってられないほどの激しい揺れに大変な恐怖を感じた。

今回は自宅や実家の周辺で見られた土木的被害を報告する。

(TUKA)

須賀川市（旧長沼町）では地震によってダムが決壊し、土石流が下流域の集落を押し流すという災害が発生したのだが、大津波被害と原発事故が余りにも深刻であるため、報道量は相対的に少ない。よってやや詳細に触れている。

< 須賀川市 >



林精器製造

SEIKOの時計部品などを製造している工場が倒壊した。地震後、建物から発生する異音に従業員が気付き、全員避難した直後に倒壊したとのことで人的被害はなかった。



果樹園

地割れが発生し、30cmほどの段差が生じている。



新幹線

運休したまま数日が経過し、レールが赤く錆び始めていた。
この付近の架線柱には被害はなかったようだ。



初山地区の石碑1

ほぼ全ての石碑が倒れていた。



初山地区の石碑2

私の祖先が建てた道路開削記念碑が倒壊し、4つに割れてしまった。

おたきや
神炊館神社

須賀川宿の総鎮守で芭蕉も参詣した由緒ある神社。
参道の両側に並んでいた石灯籠が軒並み倒壊した。





土蔵

須賀川市内には古い土蔵が多数残っているのだが、そのほとんどが何かしらの被害を受けた。
この大きな土蔵にも「危険」の判定結果が貼られている。

八幡町交差点のビル

かつてここには市内小中学校の教科書も扱う橋本書店が入っていた。
倒壊の危険があるため、前を通る国道118号が通行止めになった。





須賀川市役所1

遠路はるばる広島県から来た陸上自衛隊の軽装甲機動車。

愛知県警や静岡県警のパトカーが市内や福島空港を巡回する姿も見られた。

隣の白い車は避難者のものらしく、後部座席には毛布が積んであった。



須賀川市役所2

庁舎は損壊が酷く、立ち入り禁止になっていた。
倒壊の恐れがあるため解体することになった模様。



須賀川市立第一小学校付近

小学校に通じる市道の惨状。溜池の堰堤が陥没してしまった。校舎も建て替えしなければならないほど損壊した。



県道54号須賀川三春線

道路脇に増設された栈橋状の歩道が崩落寸前。



朝日稲荷神社1

非常に堅牢そうに見える台座が崩れている。

朝日稲荷神社2

境内の片隅で見つけた記念碑。

倒れることなく立ったまま30cmほど移動していた。



国立福島病院付近

バス路線でもある市道が大規模陥没。



大桑原地内

羽鳥用水の水路が至る所で損壊。

復旧は春の田植えまでに間に合わないとのこと。



< 郡山市 >

県道6号郡山湖南線1


マンションが倒壊し、数人の住民が閉じ込められたが全員救出された。
図書館に向かう際に必ず通るルートだったが閉鎖されてしまった。
救出の様子が「[ニューヨーク・タイムズ](#)」のサイトに掲載されている。





県道6号郡山湖南線2

そのマンションの下敷きになった自転車。



郡山市役所

4面ガラス張りだった屋上展望台が崩壊。
他にも損傷が激しいため、庁舎内立ち入り禁止となっていた。



県道29号長沼喜久田線

近年開削されたバイパス道に生じた大きな亀裂。
他にも国県道、市道、農道を問わず、
あらゆる道路で陥没や亀裂が見られた。

< 須賀川市 (旧長沼町) >



国道118号・江花付近

大規模な山崩れが発生。

崩落の危険があるため通行止めになった。



国道118号北側・木之崎付近

国道を走っていて異様な光景に気付いた。
遠目では何であるか判別できなかったが、接近してやっと理解。
液状化現象により突出したマンホールであった。



県道29号長沼喜久田線・簀ノ子橋1

県道を南下する途中で偶然通りかかり、妙な違和感を感じて停車した。当初はなぜ橋の欄干が失われたのか理解できなかったが、しばらくしてここが決壊した藤沼湖の下流であることに気付いて震撼した。全ての欄干がもぎ取られ、あるいは下流側に倒れてしまっている。聞くとところによると、押し流された倒木や家は一旦ここで堰を築き、耐え切れなくなって一気に下流へ流れたとのこと。



県道29号長沼喜久田線・簀ノ子橋2

欄干の支柱基部。

ナットが付いたままボルトが抜けている。

上流にある藤沼湖まで行ってみることにした。



藤沼湖

湖畔を巡る遊歩道の惨状と、すっかり水がなくなってしまった藤沼湖。

昭和12年(1937)に着工し、戦時休止を挟んで昭和24年に完成した農業用溜池である。その後、何次にも渡る改良工事を経て今では自然公園として整備され、多くの観光客が訪れる場所となっていた



藤沼湖周回道路

決壊した堰堤を目指して歩き出す。
道路が陥没しているためクルマでは行けない。

藤沼湖・本堤西側1

決壊現場に到着。

堰堤上に設けられた車道が完全に消失している。

土を突き固めたのであろう痕跡が階段状に露出していた。



藤沼湖・本堤西側2 **【動画】**

植林された木々を薙ぎ倒しつつ、土石流となって斜面を下っていった。
反対側にも行ってみよう。





藤沼湖・副堤

坂道を上って湖畔に着く。

この副堤も崩落していたが、紙一重で決壊は免れたようだ。

もしこちらが決壊していたら、土石流が長沼の市街地を直撃していた。



藤沼湖・本堤東側

堰堤の一部が切れたのではなく、全体が内側に崩落したようだ。
被害を受けた下流の集落に向かう。



藤沼湖下流・滝地区1

溜池の水は右奥から下ってきた。

ここには水田があったのだが表土ごと押し流されてしまい、
地下の岩盤が露出してしまっていた。



藤沼湖下流・滝地区2

土石流は橋を飲み込み、箕ノ子川に合流。
橋は残ったが欄干はこの状態となった。

藤沼湖下流・滝地区3

勢い余った土石流は簀ノ子川を越えて対岸の集落を襲い、民家を押し流して人的被害が発生する惨事となった

先に訪れた簀ノ子橋はここから1km下流に当たる。





簀ノ子川流域 1

簀ノ子橋からさらに1kmほど下ったところにも橋の記号があるので行ってみたのだが、跡形もなく消えていた。

下流を遠望してみたが橋桁の姿は見えなかった。



簗ノ子川流域2

流出物は滝地区から3km離れた水田にまで広がっていた。

土石流はさらに1km下流で堤防擁壁を削り取り、江花川に合流した。

東日本大震災の記録

(福島県 須賀川市・郡山市)

この記事の感想をお聞かせください。

公式サイトアンケートのほか、下記フォームからお送りいただくこともできます。みなさまのご意見、お待ちしております！

1. この記事はいかがでしたか？

←つまらない・役に立たない ふつう おもしろい・役に立つ→

1

2

3

4

5

2. コメントをどうぞ！

(空欄でも結構です。内容は「日本の廃道」公式サイトや本誌で公開する場合があります。公開を希望されない場合は「公開不可」にチェックを。)

公開不可

次号発行まで保留